

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年11月15日
【四半期会計期間】	第38期第2四半期（自平成22年7月1日至平成22年9月30日）
【会社名】	株式会社クレオ
【英訳名】	CREO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 土屋 淳一
【本店の所在の場所】	東京都港区高輪三丁目19番22号
【電話番号】	03(3445)3500(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 雨田 高志
【最寄りの連絡場所】	東京都港区高輪三丁目19番22号
【電話番号】	03(3445)3500(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 雨田 高志
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第2四半期連結 累計期間	第38期 第2四半期連結 累計期間	第37期 第2四半期連結 会計期間	第38期 第2四半期連結 会計期間	第37期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成21年 7月1日 至平成21年 9月30日	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高(百万円)	4,594	4,389	2,700	2,573	9,518
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	32	135	248	167	82
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失( )(百万円)	1	341	285	21	86
純資産額(百万円)	-	-	4,156	3,900	4,241
総資産額(百万円)	-	-	6,380	5,778	5,758
1株当たり純資産額(円)	-	-	467.98	439.48	477.95
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額( ) (円)	0.17	38.49	32.17	2.42	9.75
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	-	-	65.0	67.4	73.6
営業活動によるキャッシュ・フ ロー(百万円)	173	264	-	-	168
投資活動によるキャッシュ・フ ロー(百万円)	75	149	-	-	276
財務活動によるキャッシュ・フ ロー(百万円)	67	7	-	-	402
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	-	-	2,173	1,872	1,980
従業員数(人)	-	-	958	927	960

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう、以下同じ)は含んでおりません。但し、免税業者に該当する連結子会社1社については税込方式によっております。
3. 第37期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第37期第2四半期連結会計期間及び第37期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 第38期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、1株当たり四半期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。
6. 第38期第2四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（人）	927
---------	-----

（注）従業員数は就業人員であり、出向受入者を含み出向転出者を除いて記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（人）	603
---------	-----

（注）従業員数は就業人員であり、出向受入者を含み出向転出者を除いて記載しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	前年同四半期比(%)
システム開発事業(百万円)	866	-
ZeeM事業(百万円)	499	-
コンシューマ事業(百万円)	764	-
モバイル事業(百万円)	43	-
サポート&サービス事業(百万円)	541	-
合計(百万円)	2,715	-

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注状況

当第2四半期連結会計期間における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比 (%)
システム開発事業	842	-	850	-

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	前年同四半期比(%)
システム開発事業(百万円)	887	-
ZeeM事業(百万円)	539	-
コンシューマ事業(百万円)	560	-
モバイル事業(百万円)	43	-
サポート&サービス事業(百万円)	541	-
合計(百万円)	2,573	-

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
ソフトバンクBB(株)	581	21.5	622	24.2
ヤフー(株)	331	12.3	324	12.6

(注) 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、輸出・生産においては緩やかな持ち直しの動きが見られ、企業収益・設備投資には改善の傾向、雇用情勢についても持ち直しの動きが一部に見受けられてきましたが失業率は高水準であり、依然として厳しい状況が続きました。

こうした影響を受け当業界におきましても、設備投資の先送りや凍結など厳しい経営環境にあります。このような状況の中、当社グループは営業基盤の強化に伴う新規顧客の獲得、より徹底した各種経費削減、継続して利益体質の変革をするための施策のひとつとしてキャリア転換優遇支援制度の実施などを行ってまいりました。

以上の結果、売上高は、25億73百万円（前年同四半期比4.7%減）、営業利益は、1億60百万円（前年同四半期比33.5%減）、経常利益は、1億67百万円（前年同四半期比32.7%減）、四半期純利益は、キャリア転換優遇支援制度の計上により21百万円（前年同四半期比92.5%減）となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

システム開発事業については、売上は概ね計画通りに推移し、前年同四半期に比べ微増したものの、大型案件の減少や依然として厳しい市場環境による受注不足、及び当第2四半期連結会計期間に発生した一部不採算プロジェクトの影響により、利益が大幅に減少しております。

その結果、売上高は8億87百万円（前年同四半期比5.6%増）、営業利益66百万円（前年同四半期比41.8%減）となりました。

Z e e M事業については、競合激化の中、受注管理の強化を図り、商談数増加に努めたものの、一部不採算プロジェクトの影響により、前年同四半期に比べ減収減益となりました。

その結果、売上高は5億39百万円（前年同四半期比29.6%減）、営業利益12百万円（前年同四半期比89.6%減）となりました。

コンシューマ事業については、毛筆ソフト「筆まめ」、はがき・住所録ソフト「筆まめおつきあい帳2」、電子地図ソフト「プロアトラスsv6」など各製品の順調な出荷及び新たな販路の開拓などに努め、前年同四半期に比べ増収増益となりました。

その結果、売上高は5億60百万円（前年同四半期比1.9%増）、営業利益2億42百万円（前年同四半期比37.1%増）となりました。

モバイル事業については、依然として市場環境は厳しく大型案件や一括受注案件が減少した影響により前年同四半期に比べ売上が減少したものの、損失については経費削減に努め減少となりました。

その結果、売上高は43百万円（前年同四半期比10.1%減）、営業損失7百万円（前年同四半期は営業損失21百万円）となりました。

サポート&サービス事業については、依然として厳しい市況環境に適應するべく新技術の習得による顧客の新規分野開拓に努めた結果、前年同四半期に比べ売上、利益ともに微増となりました。

その結果、売上高は5億41百万円（前年同四半期比9.5%増）、営業利益5百万円（前年同四半期比581.7%増）となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前四半期会計期間末に比較して4億50百万円減少し、18億72百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は3億87百万円の支出（前年同四半期は88百万円の支出）となりました。また主な要因は、税金等調整前四半期純利益の減少及び売上債権の増加額によるものであります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は70百万円の支出（前年同四半期は31百万円の支出）となりました。主なプラス要因は、無形固定資産の取得による支出の減少であります。また主なマイナス要因は、投資有価証券の売却による収入の減少であります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は6百万円の収入（前年同四半期は78百万円の支出）となりました。主な要因は、社債の償還による支出の減少であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画した重要な設備の新設について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除去、売却等の計画はありません。



## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

##### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成22年11月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,237,319	9,237,319	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	9,237,319	9,237,319	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】  
該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年7月1日～ 平成22年9月30日	-	9,237,319	-	3,149	-	787

(6) 【大株主の状況】

平成22年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
ヤフー(株)	東京都港区赤坂9丁目7番1号	3,500	37.88
クレオ従業員持株会	東京都港区高輪3丁目19番22号	302	3.27
川畑種恭	東京都三鷹市	230	2.48
富士通(株)	神奈川県川崎市中原区上小田中 4丁目1番1号	189	2.05
竹田和平	愛知県名古屋市中白区	140	1.51
加賀美忍	東京都世田谷区	120	1.29
津川貴史	大阪府吹田市	105	1.13
椎名博	福島県いわき市	101	1.09
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都中央区晴海1丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	100	1.08
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	100	1.08
計	-	4,888	52.92

(注) 上記のほか、自己株式が 371,782株あります。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 371,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,768,000	8,768	-
単元未満株式	普通株式 98,319	-	-
発行済株式総数	9,237,319	-	-
総株主の議決権	-	8,768	-

【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社クレオ	東京都港区 高輪三丁目19番22号	371,000	-	371,000	4.01
計	-	371,000	-	371,000	4.01

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	187	177	163	161	163	162
最低(円)	155	150	157	152	152	150

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ市場におけるものであります。

3【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人ナカチによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,112	2,510
受取手形及び売掛金	2,103	1,768
商品及び製品	29	20
仕掛品	372	320
その他	198	176
貸倒引当金	4	3
流動資産合計	4,811	4,791
固定資産		
有形固定資産	2 179	2 174
無形固定資産		
のれん	72	97
その他	397	378
無形固定資産合計	470	476
投資その他の資産	3 316	3 316
固定資産合計	967	967
資産合計	5,778	5,758
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	356	238
短期借入金	25	25
未払法人税等	31	33
賞与引当金	302	328
返品調整引当金	170	54
その他	738	641
流動負債合計	1,625	1,321
固定負債		
長期借入金	10	-
退職給付引当金	75	86
役員退職慰労引当金	5	5
未払役員退職慰労金	85	98
資産除去債務	64	-
その他	12	5
固定負債合計	253	196
負債合計	1,878	1,517

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,149	3,149
資本剰余金	1,428	1,428
利益剰余金	559	218
自己株式	122	122
株主資本合計	3,896	4,237
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	0	0
評価・換算差額等合計	0	0
少数株主持分	3	3
純資産合計	3,900	4,241
負債純資産合計	5,778	5,758

( 2 ) 【 四半期連結損益計算書 】  
【 第 2 四半期連結累計期間 】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 9月30日)
売上高	4,594	4,389
売上原価	3,365	3,377
売上総利益	1,228	1,012
販売費及び一般管理費	1,272	1,160
営業損失 ( )	43	148
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	0	0
還付消費税等	5	-
助成金収入	-	7
その他	11	5
営業外収益合計	18	14
営業外費用		
支払利息	3	1
保険解約損	2	-
その他	1	0
営業外費用合計	7	1
経常損失 ( )	32	135
特別利益		
固定資産売却益	2	-
投資有価証券売却益	40	-
貸倒引当金戻入額	-	0
その他	3	-
特別利益合計	46	0
特別損失		
固定資産除却損	3	-
投資有価証券評価損	2	-
退職特別加算金	-	130
事務所移転費用	1	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	38
その他	0	18
特別損失合計	7	186
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 ( )	6	322
法人税、住民税及び事業税	16	10
法人税等調整額	2	8
法人税等合計	18	19
少数株主損益調整前四半期純損失 ( )	-	341
少数株主利益又は少数株主損失 ( )	10	0
四半期純損失 ( )	1	341

## 【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	2,700	2,573
売上原価	1,829	1,821
売上総利益	871	751
販売費及び一般管理費	629	591
営業利益	241	160
営業外収益		
受取利息	0	0
還付消費税等	5	-
助成金収入	-	5
その他	2	1
営業外収益合計	8	7
営業外費用		
支払利息	1	0
その他	0	0
営業外費用合計	1	0
経常利益	248	167
特別利益		
投資有価証券売却益	40	-
貸倒引当金戻入額	-	0
その他	0	-
特別利益合計	41	0
特別損失		
退職特別加算金	-	130
事務所移転費用	1	-
その他	-	16
特別損失合計	1	146
税金等調整前四半期純利益	289	20
法人税、住民税及び事業税	13	7
法人税等調整額	4	7
法人税等合計	8	0
少数株主損益調整前四半期純利益	-	21
少数株主損失( )	4	0
四半期純利益	285	21



## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	6	322
減価償却費	127	137
のれん償却額	24	24
貸倒引当金の増減額( は減少)	116	0
賞与引当金の増減額( は減少)	128	25
役員賞与引当金の増減額( は減少)	5	-
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	30	0
退職給付引当金の増減額( は減少)	0	11
返品調整引当金の増減額( は減少)	97	116
受取利息及び受取配当金	2	0
支払利息	3	1
有形固定資産売却損益( は益)	2	-
有形固定資産除却損	3	0
投資有価証券売却損益( は益)	40	0
投資有価証券評価損益( は益)	2	1
関係会社株式売却損益( は益)	0	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	38
売上債権の増減額( は増加)	58	334
たな卸資産の増減額( は増加)	172	61
仕入債務の増減額( は減少)	26	118
未払金の増減額( は減少)	0	32
破産更生債権等の増減額( は増加)	117	-
その他	46	32
小計	152	252
利息及び配当金の受取額	2	1
利息の支払額	2	1
法人税等の支払額	20	11
営業活動によるキャッシュ・フロー	173	264
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1	1
有形固定資産の売却による収入	10	-
無形固定資産の取得による支出	217	139
投資有価証券の取得による支出	3	0
投資有価証券の売却による収入	96	0
定期預金の預入による支出	30	10
定期預金の払戻による収入	-	300
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	0	-
差入保証金の差入による支出	0	-
差入保証金の回収による収入	54	0

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
保険積立金の解約による収入	28	-
その他	12	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	75	149
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	15	40
短期借入金の返済による支出	-	45
長期借入れによる収入	-	20
長期借入金の返済による支出	5	5
社債の償還による支出	75	-
自己株式の取得による支出	0	0
リース債務の返済による支出	2	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	67	7
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	316	108
現金及び現金同等物の期首残高	2,489	1,980
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,173	1,872

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
会計処理基準に関する事項の変更	<p>資産除去債務に関する会計基準の適用</p> <p>第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、営業損失、経常損失がそれぞれ1百万円増加し、税金等調整前四半期純損失が、40百万円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は64百万円であります。</p>

【表示方法の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
(四半期連結損益計算書)	
1. 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失」の科目で表示しております。	
2. 前第2四半期連結累計期間において特別利益の「その他」に含めて表示しておりました「貸倒引当金戻入額」は、特別利益の総額の100分の20を超えたため区分掲記しました。なお、前第2四半期連結累計期間の「貸倒引当金戻入額」は、2百万円であります。	
3. 前第2四半期連結累計期間において独立掲記しておりました特別損失の「固定資産除却損」(当第2四半期連結累計期間0百万円)及び「投資有価証券評価損」(当第2四半期連結累計期間1百万円)は、特別損失の総額の100分の20以下となったため、特別損失の「その他」に含めて表示しております。	

	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
(四半期連結損益計算書)	
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。	

【簡便な会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
一般債権の貸倒見積高の算定方法	<p>当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)												
<p>1. 当社においては運転資金の効率的な調達を行なう為取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当第2四半期連結会計期間末の借入金未実行残高は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>当座貸越極度額の総額</td> <td>500百万円</td> </tr> <tr> <td>借入金実行残高</td> <td>百万円</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>500百万円</td> </tr> </table> <p>2. 有形固定資産の減価償却累計額は、492百万円であり ます。 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれてお ります。</p> <p>3. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 0百万円</p>	当座貸越極度額の総額	500百万円	借入金実行残高	百万円	差引	500百万円	<p>1. 当社においては運転資金の効率的な調達を行なう為取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計期間末の借入金未実行残高は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>当座貸越極度額の総額</td> <td>500百万円</td> </tr> <tr> <td>借入金実行残高</td> <td>百万円</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>500百万円</td> </tr> </table> <p>2. 有形固定資産の減価償却累計額は、475百万円であり ます。 同左</p> <p>3. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 0百万円</p>	当座貸越極度額の総額	500百万円	借入金実行残高	百万円	差引	500百万円
当座貸越極度額の総額	500百万円												
借入金実行残高	百万円												
差引	500百万円												
当座貸越極度額の総額	500百万円												
借入金実行残高	百万円												
差引	500百万円												

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)																				
<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>販売促進費</td> <td>53百万円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>給与手当及び賞与</td> <td>468</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>68</td> </tr> </table>	販売促進費	53百万円	広告宣伝費	94	給与手当及び賞与	468	退職給付費用	19	賞与引当金繰入額	68	<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>販売促進費</td> <td>42百万円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>給与手当及び賞与</td> <td>461</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>48</td> </tr> </table>	販売促進費	42百万円	広告宣伝費	40	給与手当及び賞与	461	退職給付費用	17	賞与引当金繰入額	48
販売促進費	53百万円																				
広告宣伝費	94																				
給与手当及び賞与	468																				
退職給付費用	19																				
賞与引当金繰入額	68																				
販売促進費	42百万円																				
広告宣伝費	40																				
給与手当及び賞与	461																				
退職給付費用	17																				
賞与引当金繰入額	48																				

前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)																				
<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>販売促進費</td> <td>30百万円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>給与手当及び賞与</td> <td>222</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>13</td> </tr> </table>	販売促進費	30百万円	広告宣伝費	75	給与手当及び賞与	222	退職給付費用	9	賞与引当金繰入額	13	<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>販売促進費</td> <td>24百万円</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>給与手当及び賞与</td> <td>226</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>19</td> </tr> </table>	販売促進費	24百万円	広告宣伝費	28	給与手当及び賞与	226	退職給付費用	8	賞与引当金繰入額	19
販売促進費	30百万円																				
広告宣伝費	75																				
給与手当及び賞与	222																				
退職給付費用	9																				
賞与引当金繰入額	13																				
販売促進費	24百万円																				
広告宣伝費	28																				
給与手当及び賞与	226																				
退職給付費用	8																				
賞与引当金繰入額	19																				

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)												
<p>現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年9月30日現在) (百万円)</p> <table border="0"> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>2,603</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td>430</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>2,173</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	2,603	預入期間が3か月を超える定期預金	430	現金及び現金同等物	2,173	<p>現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) (百万円)</p> <table border="0"> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>2,112</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>1,872</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	2,112	預入期間が3か月を超える定期預金	240	現金及び現金同等物	1,872
現金及び預金勘定	2,603												
預入期間が3か月を超える定期預金	430												
現金及び現金同等物	2,173												
現金及び預金勘定	2,112												
預入期間が3か月を超える定期預金	240												
現金及び現金同等物	1,872												

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数  
普通株式 9,237千株
2. 自己株式の種類及び株式数  
普通株式 371千株
3. 新株予約権等に関する事項  
該当事項はありません。
4. 配当に関する事項  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	システム 開発事業 (百万円)	Z e e M 事業 (百万円)	コンシュー マサービス 事業 (百万円)	モバイル 事業 (百万円)	サポー ト&サー ビス事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	840	767	549	48	494	-	2,700	-	2,700
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	9	-	-	103	-	114	114	-
計	842	776	549	48	597	-	2,815	114	2,700
営業利益(又は営業損失)	114	125	176	21	0	-	395	154	241

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	システム 開発事業 (百万円)	Z e e M 事業 (百万円)	コンシュー マサービス 事業 (百万円)	モバイル 事業 (百万円)	サポー ト&サー ビス事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	1,527	1,223	677	104	1,057	3	4,594	-	4,594
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	4	15	-	2	208	-	230	230	-
計	1,531	1,239	677	106	1,265	3	4,824	230	4,594
営業利益(又は営業損失)	172	1	117	44	55	0	302	346	43

(注) 1. 事業区分の方法

事業は商品又は役務提供の系列及び事業の種類・性質の類似性を考慮して行っております。

2. 各区分に属する主要な商品又は役務の名称

事業区分	主要商品又は役務の名称
システム開発事業	(システムインテグレーションサービス) 企画提案からシステム要件定義、システム設計、プログラム作成、その後の保守までの一貫したサービス、サポートサービス (アプリケーション開発) 先進的な業務システムの開発
Z e e M事業	人事・給与、会計等のソフトウェアパッケージの開発販売 インターネット会議システム「FACE Conference <sup>TM</sup> 」の販売、 プリント・ソリューションの開発・販売等
コンシューマサービス事業	毛筆ソフト、電子地図ソフト、DTPソフト、デジタルカメラ画像処理ソフト等のソフトウェアパッケージの開発販売、筆まめ関連インターネット・サービス
モバイル事業	携帯サイトコンテンツ開発・サービス、自社モバイルソリューションの開発・販売
サポート&サービス事業	コンピュータに関する顧客サポート、教育の受託等
その他の事業	シニア向けインターネット・サービス

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）及び前第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）及び前第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別に事業を区分し、各事業単位に取り扱う製品・サービスの包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業区分を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「システム開発事業」、「ZeeM事業」、「コンシューマ事業」、「モバイル事業」、「サポート&サービス事業」の5つを報告セグメントとしております。

「システム開発事業」は、企業等のシステムインテグレーションサービス及びアプリケーション開発をしております。「ZeeM事業」は、人事・給与及び会計のソフトウェアパッケージの開発販売をしております。「コンシューマ事業」は、毛筆ソフト、電子地図ソフト、DTPソフト等のソフトウェアパッケージの開発販売をしております。「モバイル事業」は、携帯サイトコンテンツの開発及びサービス、自社モバイルソリューションの開発及び販売をしております。「サポート&サービス事業」は、コンピュータに関する顧客サポート、教育の受託開発をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	システム 開発事業	ZeeM 事業	コンシューマ 事業	モバイル 事業	サポ ート&サー ビス事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	1,569	999	687	92	1,040	4,389
セグメント間の内部売上 高又は振替高	29	18	-	-	183	231
計	1,598	1,017	687	92	1,224	4,620
セグメント利益又は損失（ ）	26	77	225	26	31	179

当第2四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	システム 開発事業	ZeeM 事業	コンシューマ 事業	モバイル 事業	サポ ート&サー ビス事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	887	539	560	43	541	2,573
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	12	-	-	90	102
計	887	551	560	43	632	2,675
セグメント利益又は損失（ ）	66	12	242	7	5	319

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	179
セグメント間取引消去	24
全社費用(注)	303
四半期連結損益計算書の営業損失	148

当第2四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	319
セグメント間取引消去	12
全社費用(注)	146
四半期連結損益計算書の営業利益	160

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)		前連結会計年度末 (平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	439.48円	1株当たり純資産額	477.95円

2. 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失金額等

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	
1株当たり四半期純損失金額	0.17円	1株当たり四半期純損失金額	38.49円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額		
四半期純損失( ) (百万円)	1	341
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失( ) (百万円)	1	341
期中平均株式数(千株)	8,868	8,865
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	32.17円	1株当たり四半期純利益金額	2.42円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(百万円)	285	21
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	285	21
期中平均株式数(千株)	8,867	8,865
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-



(重要な後発事象)

当社及び一部の連結子会社は、平成22年10月1日より従来の定年退職一時金を廃止し、確定拠出年金制度に移行いたしました。

これにより、平成23年3月期第3四半期において、退職給付引当金戻入額68百万円を特別利益として計上する見通しであります。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月12日

株式会社クレオ  
取締役会 御中

### 監査法人ナカチ

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 安藤 算浩 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 平田 卓 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クレオの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クレオ及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております

2 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月15日

株式会社クレオ  
取締役会 御中

### 監査法人ナカチ

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 安藤 算浩 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 平田 卓 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クレオの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クレオ及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております

2 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。